



2016. 7. 1

7月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

登園してきた子どもが大切そうに握った小さな手の中を静かに開いて見せてくれました。得意げに開いたその小さな手の中には何十匹というダンゴムシが動き回っていました。大人の私たちにとっては一瞬、「ドキッ」とする瞬間ですが、その子にとってはとても愛おしく大切な宝物のように扱っています。幼稚園で何度もこのような光景に遭遇していると、普段、あまり意識もしないダンゴムシが身近なものに感じ、間近で見ても、さわっても全く平気を感じてくるのです。ダンゴムシは「むし」という名前ですが、実際はカニやエビと同じ甲殻類に分類され脱皮を繰り返し、非常食としても用いられるようです。どうでも良いことかもしれないませんが子どもとの関わりの中で、ちょっと気になり調べてみたりもしました。私のしぼんでしまいそうな好奇心を駆り立てられたわけです。

子どもの頃は全く平気だったことが大人になるにつれて反対にできなくなったり嫌になっていくということはたくさんあると思われまふ。残念なことに私たち大人は自然の一部であるにもかかわらず快適な生活を手に入れるために日常のちょっとした出来事や出会いに心を動かすことをせず、知らず知らずのうちに自然から離れていっているように感じます。幼稚園だけでなく公園や野原といった身近な自然の中で、子どもたちはアリやダンゴムシが動き回る姿を見て、こんな小さな虫たちも生きていることを、知識ではなく五感を通して実感します。そして、幼虫からさなぎそして成虫へと成長に合わせてその姿を変えていく、テントウムシやアオムシなども、子どもにとっては、たまたま不思議なものとして、子どもたちの想像力をかきたて、将来にわたる探究心への原動力となっていきます。ともすれば、私たち大人の価値観は、そのような子どもたち探求心、好奇心を認めることなく、何かをしようとする「やってみる」という意欲をそいでしまっているようなことはないでしょうか。もし、無意識のうちに見せる大人の表情や言動がそのような働きかけになっていれば、とても残念なことです。

子どもたちにとっては、自由な時間がたっぷり確保された、この時期にしか経験できない真夏を体感できる季節がもうすぐやってきます。キャンプやお泊まり保育、プールあそびなど夏ならではの園生活、またはご家庭でのレジャーに於いても、彼らの好奇心を駆り立てるたくさんの刺激が待っています。

この夏、たくさんの自然環境の中で好奇心に満ちあふれた子どもたちの生き生きした笑顔がたくさん見られるように、そしてその中で、自然の創造主である神様を実感しながら過ごしていけるような季節となるように見守っていきたいと思います。

年主題 『平和をともに』

<年主題聖句> 「キリストは私たちの平和であります。」
(エフェソの信徒への手紙2章14節)

7月主題 『やってみる』

<聖句> 「探しなさい。そうすれば、見つかる。」
(マタイによる福音書7章7節)